

# 九州正教会だより

第69号



(福岡・熊本・人吉・鹿児島)

2025年6月1日発行

発行人：司祭グリゴリイ水野 宏

〒811-2232 福岡県糟屋郡志免町別府西 2-7-1

TEL / FAX 092-410-0540

mail ocj.kyushu@gmail.com

ウェブサイト <https://www.ocj-kyushu.com/>



その声は全地に伝わり <sup>ことば</sup> その言 <sup>はて</sup> は地の極に至る

司祭グリゴリイ 水野 宏

今年6月8日は聖霊降臨を記憶する聖五旬祭です。聖五旬祭の聖体礼儀で読まれる使徒言行録2章には、聖霊降臨の時に何が起きたかが記されています。

「突然、激しい風のような音が天から聞こえ、彼ら（使徒たち）が座っていた家中に響いた。そして炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人ひとりの上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、霊が語るままに、ほかの国々の言葉で話し出した。」（使徒2:2-4）

これは聖霊が使徒たちに降り、その後彼らによって主の福音が全世界に宣べ伝えられたことを示すものです。上に掲げた本稿のタイトルは詩篇19からの引用ですが、主の降誕より何百年も前に書かれた詩篇の預言が、この時まさに実現したと言えるでしょう。

このことを反映して、正教会では古来、聖書や祈祷書はその民族の言葉に翻訳して宣教が行われてきました。復活大祭の聖体礼儀で、福音書の同じ箇所を世界各国の言葉で朗読する習慣は、まさにその表れです。言い換えれば神の愛、神による救いは全ての人類に向けられているのだから、人間の側の都合で他人を分け隔ててはならないというのが、正教会の考えです。

今日でも、そして先進国でさえも移民対策などと称して、人々を人種や国籍などの「何らかの違い」で差別することが当たり前に行われています。しかも一部の社会では、キリスト教会さえも積極的にそれに関わっていると聞きます。しかし、それは上記のように聖書の記述、神の御旨に反しており、正教会とは相容れない考えだと言わざるを得ません。

この九州のような地方社会でも、いろいろな国で生まれ、いろいろな言葉を話す人々が教会に集ってきます。わが日本正教会は、人種差別にも戦争にも関与しない、愛と平和の集団として存在しているのですから、九州の教会でも同じ信仰を共有する様々な背景の人々が交流できるよう、今後も努めていきたいと思えます。

Our church in Kyushu welcomes you, because Christ himself invites you all!